「復興は食から」

避難所へ食事配達、聞き取りも　「さんさんの会」発足

大船渡市民文化会館・リアスホール1階の調理室では、朝から料理人たちが忙しく立ち回り、活気を生み出していた。震災を受け、両市で飲食店を経営していたメンバーらが「3・11三陸気仙復興委員会（通称・さんさんの会）」を立ち上げ。毎日、避難所においしい食事を届けている。

「コックだからこそできることがある」と盛町のイタリア料理店・ポルコロッソオーナーシェフの山崎純さん（45）は力強く語る。

震災翌日から店で炊き出しを行い、近隣へ食事を届けていた山崎さん。周囲の協力を得ながらも、個人の力に限界を感じ始めていたころ、活動を聞きつけた料理人仲間が集まりだした。

「三陸気仙を愛する我々で、気仙を震災以前の、いやそれ以上に向上させよう」と決起したメンバーは、すぐ同会を発足。現在も会員が力を合わせて朝・晩、ときには昼食分も用意し、手分けして配達している。

山崎さんは同時に、避難所を1軒ずつ回り聞き取り調査も行ってきた。ライフラインはどの程度使えるか。食事を必要とする人数は。調理済みのものがいいのか、食材を届けたほうがいいのか――。「その結果がようやくまとまりつつあり、必要とされている形で、効率良く食事を提供できるようになってきた」という。

「避難者に『ごはんは食べてますか』と尋ね、相手が『食べてます』と答えたからそれで良いというものではない」と山崎さんは考える。〝食べるようこび〟の有無は、健康・精神の両面に大きく左右してくるからだ。

食べられていたとしても朝昼晩おにぎりだけであれば、炭水化物の過剰摂取で栄養障害が起きてしまう。何より、温かいものを届けたときに見られる避難者の笑顔。『こんなおいしいものが食べられるとは思わなかった』と大人の男性が涙を流した姿も忘れられない」と山崎さん。

調理場では、同町のカレーショップコジカ店長・鈴木典夫さん（62）が主に指揮を取る。用意するのは毎食1000人分。野菜力レーや、おかずとなるコロッケ、ヒレカツ、揚げ出し豆腐におひたし…毎日のバリエーションも豊富だ。

コジカをはじめ同会構成メンバーは、津波で店を失った人ばかり。しかし鈴木さんは「店が波に呑まれた次の瞬間には、『被災者のために食べるものを作らなければ』と考えていた。自分にはそれしかできないのだから」と、いち早く市へ申請。リアスホールの調理場を借り、山崎さんらに声をかけていた。

「おいしいものは、必ず人に力を与える」と同会は信じる。復興の活力を食から生み出そうというさんさんの会は、食材手配のほか、あらゆる面でさらなる協力者も求めている。

▽さんさんの会＝カレーショップコジカ、レストランサンジャック、ポルコロッソ、大黒屋、スタンディング酒場アデト、ブロック808、佐藤まどか、古水晴、大友康平▽後援＝盛岡いしがきミュージックフェスティバル実行委員会、早池峰法律事務所、岩手銀河法律事務所

プロの手際を発揮し、毎食1000人分を作る「さんさんの会」メンバー＝リアスホール

望まれる早期復旧

電話、ガソリン供給体制…

大船渡市

大船渡市によると、24日午前10時30分時点での市内死者数は245人。前日よりも10人増え、新たな身元判明者23人を公表した。

同日も捜索活動に加え、各地ではがれき撤去作業や、被害車両の移動が進められた。車両移動は20日以降大船渡町や赤崎町、三陸町などで行われ、23日までに381台となった。赤崎町の永浜・山口地区岸壁に順次運ばれている。

避難所は市内に53カ所あり、避難者数は5169人。これとは別に燃料不足や停電が続く中、寝泊まりはしないものの食料配給などを受ける住民は2600人を超え、各避難所ごとの実情に合わせた物資支援が行われている。

市内では電気や上水道などが徐々に復旧している中、依然として固定電話は全域で不通となっている。

再開した企業活動にも支障を来している中、市では「津波を受け、大船渡町新田にあるNTTの建物1、2階が浸水した。被害確認を進めているが、早くとも4月の中旬ごろの復旧ではないか。致命的な損傷が見つかれば、さらに遅れることもあるだろう」との見通しを示している。

陸前高田市

陸前高田市によると、震災による住宅被害数は3600戸で、被災人員は1万547人。24日午後4時現在、避難所、避難者の数は8地域に75カ所、9397人と、前日と変わらなかった。

遺体安置所は下矢作小、米崎中、矢作小、矢作中4校の体育館と、住田町生涯スポーツセンターの5カ所で、開所時間は午前8時30分から午後5時。市と県が指定した5自治体で火葬を行っている。

戸羽太市長はこの日、東祥三内閣府副大臣の被災現場調査において、ガソリンの確保、携帯電話通信の早期復旧などを要望したと報告。「ガソリンについては、近日中に市民に配れるようなシステムを設けたいと返事があった。前に進めるものと期待したい」と述べた。

また、県が内陸部への一時避難に関する調査を行っていることに対し、「結果を踏まえ、各地から来ている受け入れの声に応えていく」とコメント。復興に向けた道筋に関しては、「まだ方向性は示せないが、市内に残りたいという人もいる。さまざまなアイデアや国、県の指導を受けて皆さんが住める土地をつくっていきたい」と語った。

住田町

ほぼ全域に光ファイバー網を張り巡らせている住田町では23日正午から、これを活用した固定電話やインターネット、防災告知が仮復旧。電気、水道、ガスと合わせ、ライフラインがひとまず確保される形となった。

同町では隣接の遠野市がすでに設置しているケーブルテレビ施設から、加入世帯・事業所まですべての回線に光ファイバーをつなげ、テレビ放送、NTTによる「ひかり電話」インターネット「Bフレッツ」、防災告知受信といったサービスを提供している。

仮復旧したのはこれに加入する分。ひかり電話は町内では受発信可能だが、町外には発信のみ。

インターネットはBフレッツ以外のADSL、ISDNは本復旧まで利用不可。

アナログ電話、INSネット回線利用の場合は、各戸装置（ONU）の差し込み替えで対応できる。

この仮復旧では、期間に応じて基本料金を減免するが、通話料は実費となる。故障など問い合わせはNTT東日本岩手支店法人営業部（TEL019・6063・3520）へ。

同町では4月1日の定期人事異動について、出向など一部対象を除いて1～2カ月延期。3月31日付の退職、4月1日付の新採用は変更せず行う。

また、今月29日から町職員を陸前高田市へ派遣することを決定。3人1班で3日ずつ赴くもので、期間は現段階で1カ月程度を予定している。

同じ被災者に散髪奉仕

理容業の柳下さん家族

陸前高田市

陸前高田市高田町の馬場前地区で理容店を営んでいた柳下正一さん（66）。今回の東日本大震災により店舗兼自宅が流出して市立第一中学校での避難所生活を余儀なくされているが、23日午後から同校体育館の一角に臨時の理容店を開設。自分と同じつらい思いでいる被災者を対象に散髪奉仕を始めた。

柳下さんは、震災で店舗とともに商売道具であるはさみやかみそりなどを失った。その後、被災者として第一中学校で生活している。

そこで、周りの人が着の身着のままで逃げてきたことから、「せめて髪の毛をスッキリとさせたあげたい」と思い立ち、以前から将棋を通じて親しくしていた大東町の同業者に連絡。はさみなどの七つ道具をそろえてもらった。

同校体育館の一角に開設した臨時理容店では、柳下さんをはじめ妻の実和子さん（61）、二男の紀昭さん（34）の3人がはさみを手に、訪れた人の希望通りにカット。髪の生え際にかみそりを入れるなど丹念に仕上げている。

お客さんの第1号となった高田町の喫茶店経営・中川聖洋さん（68）は、「本当にありがたい。まさか避難所で散髪してもらうとは思いませんでした」とにっこり。

初日は十数人の髪をカット。柳下さんは「お客さんに喜んでもらい本当に良かった。今後も希望者がいれば散髪してあげたい」と話していた。

柳下さん家族が同じ被災者に散髪奉仕＝陸前高田市

生活関連情報

ライフライン

【電気】

◆大船渡市＝盛、猪川、立根、日頃市各町で全域で復旧。大船渡町は国道45号山側、末崎中周辺（電源車）、赤崎町は船河原と末崎中周辺（電源車）、赤崎町は上三区まで復旧。

◆陸前高田市＝高田、竹駒、横田、米崎各町の一部、長部小、広田小、越戸内地区を除く矢作町で復旧。

【水道】

◆大船渡市＝一部給水（猪川町全域、盛、立根各町の一部、大船渡病院周辺、赤崎町の中井・沢田地域、日頃市の長安寺地域まで）。簡易水道は越喜来、崎浜、吉浜、根白の各簡水のごく一部が使用可能。

◆陸前高田市＝市内全域断水。給水活動中。

【LPガス】

◆気仙3市町＝家庭用LPガスがなくなったり、ガス漏れ等があった場合は販売店へ。連絡がつかない場合は大船渡町上平のLPガス災害対策本部（TEL27・1625、気仙郡漁連内）に連絡を。

【下水道】

◆大船渡市＝公共下水道、漁業集落排水とも使用不能。一般家庭等のし尿のくみ取り申し込み窓口は市内各避難所、JAおおふとの盛、猪川、日頃市、綾里、吉浜各支店と介護支援センター立根（立根支店脇）に設置。初回のみ無料。全量のくみ取りはできない。

◆陸前高田市＝浄化センター機能停止。電話が通じる場合は業者に直接電話を。電話が通じない場合は各地区本部に備え付けの「くみ取り申込書」に必要事項を記入し、災害対策本部に提出を。

【電話】

◆固定電話は気仙両市内全域不通。

◆大船渡市＝被災者用の発信専用電話を県大船渡地区合同庁舎、末崎ふるさとセンター、大船渡地区公民館、大船渡北小、盛小、福祉の里センター、赤崎漁村センター、蛸ノ浦漁村厚生施設、旧花菱縫製三陸工場、綾里中、吉浜地区拠点センター、大船渡中に設置。携帯電話はソフトバンクを除き、市内の一部で通話可能。

◆陸前高田市＝被災者用の発信専用電話を長部コミセン、高田一中、広田小、米崎小、矢作小、米崎中、矢作中、気仙小、竹駒小、横田小